

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和3年度農作物病害虫発生予察情報について

令和3年度農作物病害虫発生予報第15号を発表したので送付します。

令和3年度農作物病害虫発生予報第15号

令和4年3月23日
徳島県

I. 果樹 カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 旧葉での発生圃場率が6.3%と, 平年(20.6%)に比べて低く, 発病度は0.1と, 平年(0.2)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病原菌は病枝や病葉で越冬し, 翌年の新梢発生時から6月頃まで新葉に雨滴によって伝染する。
- (2) 薬剤防除適期は4月上中旬の発芽直後(芽の長さ1cm程度)と5月中下旬の落花期である。
- (3) 春葉での感染が多いと果実の発病を抑えることは難しい。

かいよう病(スダチ)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬のスダチでの巡回調査では, 旧葉での発生圃場率が100%と, 平年(97.5%)並の発生であるが, 発病度は2.9と, 平年(8.5)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病原細菌は水滴によって運ばれ, 気孔, 傷口から組織内に侵入する。風速6~8m以上の強風を伴う場合, 侵入が助長されるので, 防風林や防風ネット等を設置し, 防風対策を行う。
- (2) 前年の夏秋梢に発生した病斑が特に翌春の伝染源となるため, 被害枝はせん定の際に, 徹底して除去する。
- (3) 旧葉に発病が認められる場合には, 発芽前の3月下旬に薬剤を散布する。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が75.0%、寄生葉率が4.9%と、平年(67.3%、10.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 12月に薬剤防除を実施していない圃場では、3月中にマシン油乳剤を散布する。12月または3月に丁寧に散布すれば、初夏まで抑制効果がある。
- (2) マシン油乳剤とボルドー液は14日以上間隔をあげ、散布する。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.8%、芽基部発病芽率が0.2%)。
- (2) 令和3年9月第3半旬及び10月第3半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。
- (3) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

II. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が18.3%、発病度が1.2%)。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が9.4%、発病葉率が0.5%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.0%、発病度が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20～25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 肥料切れは病勢の進展を助長するので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が62.5%、寄生葉率が6.3%と、平年(51.7%、4.1%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が13.8%, 発病果率が0.3%)
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。また, 灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので, 適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花卉などは伝染源になるので, できるだけ早く除去し, ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が10.2%, 発病葉率が0.6%)
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し, 病原菌密度の低下に努める。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生圃場率が28.6%, 発病葉率が2.6%と, 平年(57.9%, 10.2%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。また, 灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤が下葉の葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生圃場率が14.3%と, 平年(6.2%)に比べてやや高く, 寄生葉率が0.4%と, 平年(0.1%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているの
で, 薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が45.5%, 寄生葉率が6.1%, 被害果率が2.2%)。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 花器, 新葉, 葉裏, 葉の重なった部分などに集まる習性があるので, それらの部分に薬液が十分
かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生圃場率が71.4%と, 平年(31.0%)に比べてやや高く, 寄生葉率が21.4%と, 平年(3.0%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているの
で, 薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生圃場率が28.6%, 寄生葉率が4.3%と, 平年(11.2%, 0.2%)に比
べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並
で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春キュウリ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が55.6%と、平年(70.3%)に比べてやや低いが、発病葉率は5.1%と、平年(9.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が10.7%、発病果率が0.7%)。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

べと病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%と、平年(60.3%)に比べてやや低く、発病葉率は3.4%と、平年(14.1%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

褐斑病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(64.2%)に比べてやや低く、発病葉率は0.9%と、平年(9.9%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない。(平年同時期は発生圃場率が11.1%、寄生葉率が0.5%)。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生葉率が0.2%と、平年(39.6%、5.9%)に比べて低い。なお、被害果実は認めていない(平年同時期は発生圃場率が6.9%、被害果率が0.3%)。
- (2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(10.3%)に比べてやや高く、寄生葉率は1.8%と、平年(0.6%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報の内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生を認めていない。(平年同時期は発生圃場率が19.3%、発病度が1.7)。

(2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 県内では、べと病菌レース13による発病が確認されているので、レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。

(2) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

(3) 葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

(4) 病原菌は被害株についたまま越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染する。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布して発生を防止する。

(5) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているので、速やかに処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が57.1%、1株当たり寄生虫数が0.1頭と、平年(46.8%、0.3頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では, 発生圃場率が14.3%, 発病葉率が0.5%と, 平年(4.3%, 0.1%)に比べて高い。なお, 発病果実は認めていない(平年同時期は発病果率が0.2%)。

(2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので, 初期防除に努める。

(2) 古葉を早めに除去し, 葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

(3) 罹病した果実や茎葉などは早期に見つけ, 除去した後圃場外に持ち出し, 病原菌密度の低下に努める。

(4) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では, 発生を認めていない。(平年同時期は発生圃場率が9.3%, 発病果率が0.3%)。

(2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。

(2) 発病果は伝染源になるので, 速やかに圃場から持ち出し処分する。

(3) 薬剤感受性の低下を回避するため, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では, 発生圃場率が21.4%, 寄生株率が1.7%と, 平年(22.1%, 3.3%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では, 気温, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので, 薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が42.9%、寄生葉率が4.4%と、平年(68.6%、13.6%)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているため、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が42.9%と、平年(42.9%)並の発生であるが、寄生花率は5.6%と、平年(2.9%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が3月17日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温の変動が大きいと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

Ⅲ. その他

1) 水稻の育苗や甘藷の圃場準備等が始まり、農薬を使用する機会が多くなる時期である。農薬による危害、事故等を防ぐためにも、使用時には周辺環境に配慮した上で取り扱うとともに、使用残農薬、廃液等は適切に処分する。また、水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

2) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。